十一面観音像
重要文化材

この像は、仏教の慈悲の女神として知られている慈悲の菩薩、観音の像である。観音は人々を病気から守り、食べ物や富を確保する手助けをすると考えられている。11 の顔は様々な表情をしているが、一番大きな顔は慈悲と静けさを醸し出している。11 個の顔の意味には諸説あるが、悟りに至るまでの道筋の 10 の段階を表しており、11 番目の一番上についている顔が悟りを開いた状態を示している、という解釈もそのひとつである。
研究者たちは、この像は平安時代（794〜1185 年）にあたる 10 世紀につくられたと考えている。高さは 360 センチメートルあり、像の胴体と台座は杉の無垢材から彫り出されている。左腕の前腕と小さな頭部は別の木を継ぎ合わせている。観音の正面の顔の生き生きとした表情と大きな目が特徴的である。その他の小さな顔は様々な表情を見せている。怒りや慈悲、そして後ろ向きの顔は笑顔を見せている。